

伊那谷地名研究会通信

第 45 号

発行日
発行
事務所

平成二六年一月一日
伊那谷地名研究会
〒399-2102
長野県下伊那郡下條村陽阜七二〇八

千代・千栄の歴史と地名探訪

伊那谷地名研究会 会長 原 董

伊那史学会と共催によるフィールドワーク第一一回千代・千栄探訪を一月三日に行いました。当日は、千代公民館・千代の歴史を語る会の共催、そして地元の方々のご協力で六〇名程の皆さんに参加をいただき、内容ある探訪が開催出来ました。

その中から貴重な資料である、千代・千栄の地域地名を揚げると、荻坪（おぎつぼ）・芋平（いもだいら）・野池（のいけ）・米川（よねがわ）・法全寺（ほうせんじ）・大郡（おおごうり）・毛呂窪（けろくぼ）・八ノ倉（はちのくら）・下村（しもむら）・米峯（よなみね）・田力（たじから）・山中（やまなか）等は、飯田下伊那の他の地域には見られない地名である。が、そのほとんどは中世からの地名であることが、天正年間に行われた太閤検地による『信州伊奈郡青表紙御検地帳』に示されることから、地名に籠められる歴史に奥深いものを感じます。

地域地名の中で特徴的な地名は、「大郡」ですが語源は何か。そもそも地名「郡」（ごうり）とは、古代律令制により定められた地方行政区画の呼称とされているから、古代伊那郡の「郡」は現在の座光寺であろう。千栄の大郡の語源に繋がる歴史は何か。さらに、古代の大事な交通路に關る、「大人」（おおびと）と「諏訪ヶ池」の地名を伝えることから関心が深まります。

貴重な歴史は野池に祀られ、塩尻の小野神社に繋がる、「信濃国二宮諏訪神社」（野池神社とも言う）の歴史です。野池の「信濃国二宮諏訪神社」祭祀の歴史について資料には「外安賀多命」（とあがたのみこと）諏訪建御名方富命の御孫にあたり、伊豆速雄命二子であり、外県（とあがた）即ち上下伊那地方を経営統合され郷土発展に貢献された祖神で、野池神社の神主として祀られている」とある。野池に住む大平宏氏はその六〇代目に当たる、貴重な歴史をお聞きしました。

飯田下伊那の歴史・文化には、天龍川の東西による温存に違いが見られます。今回の千代・千栄地域の探訪から、奥深い伊那谷の歴史・文化を知るとともに、後世に伝えて行く研究の重要性を実感させられた探訪でした。皆さんのご協力に感謝を申し上げます。



野池に祀る「信濃国二宮諏訪神社」の鳥居付近と探訪の人びと

千代・千栄の

歴史・文化と地名探訪(略報)

(1) 千代小学校

大正十一年(一九二二)に開校。

(2) 化石出土地(珪化木出土)

第三紀層。動物二四種・植物九種類が出土。珪化木も出土している。

(3) 芋村歌碑

林芋村(芳弥)は明治十九年に旧千代村に誕生。代用教員尋常科正教員。昭和四年四月、植林作業中事故死。四四歳。教師としての道を問い続けながら、子どもへのひたむきな愛や四季折々の自然を自分に言い聞かせるよう歌を詠む。歌碑が国道四八号線沿いにある。

深雪せる 野路に小さき沓の跡

われこそ先に 行かましものを

(4) 荻坪観音(秩父二四番)

創建不明。秩父二四番の霊場。龍東の知久領内で、神の峯を中心に廻る。第一番の南原文永寺から、喬木を廻り、神の峯の東裏山間地、落倉・芋平・野池・荻坪・米川・南山打沢・黒見・金野・八の倉を過ぎ、今田の定継寺が三四番で札所納めとなる。厄除観音として栄える。三三年目に大開帳、半開帳は一七年目である。

(5) 山伏塚

山伏と知久の姫君の悲恋。姫は逃げる途中、田力で急死した山伏を尼となり弔ったという。塚上の老樹「千代の松」は、長い間村人に親しまれていたが、昭和三六年、台風により失われた。

(6) よこね田んぼ

(7) 松寿庵(秩父二二番)

本尊は聖観世音菩薩。木彫、延享二年安置。創建は天正一四年(一五八六)。明治六年、保寿寺に合併し廃寺。廃寺後も行事は継続し現在に至る。二月七日「大将荒神」・二月八日「千早振る二月八日は吉日ぞ、事の神をば送りこそする」の「事の神送り」・春彼岸の行事が三百余年続く。宝物は、木彫観音・天明年間作の梵鏡・大将荒神の木製数珠・小集落で唯一獅子舞が継承されていること。

(8) 野池神社

外安賀多命(とあがたのみこと) 諏訪建御方命の御孫で伊豆速雄命の第二子。外県「とあがた」即ち上下伊那を経営統合され郷土発展に貢献の祖神で野池社の主祭神。「外安賀多命、此処に常住して終焉の地」とされ、今高森と称する境内第一の高処が命の尊骸の納所と云う。鳥居の西に「祭神、外安賀多命鎮座の地あり」と記され、付近に塚が七カ所、総称し八塚と云う。

野池社は、創建不祥であるが古代まで遡る古い神社であるといえる。うえでん様は安政七年頃は氏子は二七軒で、殆どの家は野池社入口右手の高台に沿って祠を建て祀っていた。戦前迄は盛大に祭祀が催されていたが、現在は廃されて何も無い。

祭神は外安賀多命・御穂須々美命・伊豆速雄命の三神。八幡宮、位倉明神(御社口大明神)、御馬様(おめさま・二頭の馬)が祀られている。千代と千栄の石造文化財は約六五〇基であるが、内一七〇基が馬頭観音など馬関連のものである。大舞台(神楽殿)・雨乞い神事の「おみたらし」(早魃時、木製の猫を水面に浮べ、祈りが叶うと神殿に祀った)・鰐口(銘「信州智久南山郷野池社鰐口、

永享九年(一四三七)巳暮春十八日、願主情沈)・神楽面(四面)制作年代不明、面箱墨書に宝永二年(一六七四)湯立の記述がある。なお、野池二宮は、慶長六年(一六〇一)の朝日受永の朱印状は焼失したが、朱印地五石の神社であった。

(9) 大平本家

古来より代々神職の家系で、野池社と野池山を管理。庄屋、名主として野池村だけでなく、近隣の村々の関連文書等あり。神職として近隣の村々の神社の神主も勤められた節がある。

(10) 野池観音・光岳庵(秩父二三番)

本尊聖観世音菩薩。阿弥陀様合祀。知久安房守悦心の墓とか、外安賀多命の御尊骸埋葬地などの伝承がある。

(11) 知久安房守悦心(頼氏)墓

頼氏は浜松で自害といわれるが、この地に、墓石があるのは如何なる意味か。

(12) 河原沢神社(奥宮)

祭神は有史以前の古層の神と思われる。

(13) 親水公園(小水力発電実験場)

(14) 木地師の墓地

野池への木地師入山は正徳三年(一七一三)に一三人。その後、明和から文久までに四一人で計五四人が入山している。一家族男女各二人の計四人が当時の平均的な家族構成で、一家が「ろくろ」一丁を所有し、運上金(木代)を年2回から3回に分納し、計一両を毎年一月二五日の日限どおりに遅滞なく納めなければならなかったという。

(15) 河原沢神社前宮

林業全盛時、山師衆が山の請けといわれて、盛大に祭祀を執行したが、山林業の衰退とともに祭も行われなくなり現在に至る。

(16) 大平裕郎氏彰徳碑

大正四年、入会権の解消と山林整理のため、大平裕郎他九人の委員で交渉を始め、金銭折衝八ヶ村・個人二人・山林分割一ヶ村の合意に漕ぎ着け、一六年間の紆余曲折を経て、昭和五年四月に完全解決し、野池組合の所有となった。

大平裕郎は、野池山の荒れるのを憂い、明治三年から三七年にかけ、杉・桧の苗一万本を寄進し、組員が炭を焼いた跡地に二〇〇本ずつの植栽を行っている。

(17) 姿見不動

石像の不動明王が屋内に鎮座。火神・目神・盗難除け不動として厚い信仰。青銅製打楽器什物に「信州下伊那郡富田村 文政十亥年二月吉様日 施主塩沢良左エ門」の銘。文政十年は一八二七年。

(18) 大平小洲(大平新八郎)生家

大平新八郎は、画家大平小洲として花鳥画を得意とし、南画家で伊那谷を代表する画家。大平家は代々庄屋、名主、組頭を努める家柄で、酒造業、金融業で財をなし龍東一の資産家といわれた。新八郎は岩倉開発(豊村現売木材)など多方面に起業する大実業家でもあった。

(19) 伴助墓地

米川半助は、明治三年に大赦で放免。木曾、遠山、鼎等を転々。明治十年頃、米川の河原に出店したのが始まりで、米川の河原町が形成されるようになった。

(20) 金田家の板碑

金田家は関東平氏の一族と思われる。本家が泰阜村漆平野。この道は法全寺・泰阜・遠山、秋葉道へも繋がる古道である。

先祖追善供養のため、鎌倉時代の永仁二年(一

二九四)に板碑を建立。土砂崩壊で埋没。昭和六年、発掘され金田家墓地へ。発掘後八〇年余、風化を恐れ、昨年、市美術博物館に寄贈。美博に常設展示されている。

(21) 石観音(秩父二五番)

米川の川手家の裏山の石観音。三m余の苔むした巨石を観音菩薩として祀る。

(22) 城平公園(中世の城址)

知久の出城、奥の院に八幡社。武田侵攻で落城。城主は土着して川手家の先祖となる。

(23) 不動滝

招福除災・交通安全や雨乞いの祈願に人々が訪れ、御不動様と尊崇されている。

(24) 栃の大木

千代、法全寺万古溪谷に自生の地方随一の巨木。平成九年度に飯田市天然記念物に指定。樹高二五m、軒回り八・七m。根羽大杉に次ぐ巨大木。

(25) 旧寺屋敷・舞台・経塚跡

通称「経塚原」。回り舞台があったので「ぶてえ」の地名が残る。縄文土器が出土している。

(26) 法全禪寺・遣明正使天与清啓

「瑞えん山」「信南山法全禪寺」。中世龍東一帯支配の知久氏の開寺。武将創立の禪寺としては、飯伊最古ともいわれる。本尊阿弥陀如来。開山は建仁寺の榮西禅師の法裔自明正久和尚。敦幸の法名「法全寺殿」から法全寺としたと伝う。

知久氏の文化力と経済力による護持に加え、自明の高弟で、禅界の巨匠の知久氏出身の伯元清禅や、室町幕府の命で明国へ渡り、二度目は遣明使正使の天与清啓等、幾多の名僧・高僧が相次いで住持する。

(27) 神金塚

六八社の合祀。戦時中は武運長久の祈願社。中世の和鏡・刀等が出土している。

(28) 是得上人(名号碑)

文政七年(一八二四)甲歳晩春の建立。名号碑はじめ付近の石碑は「はんれい岩」で作られる。

(29) 禿淵(かむろぶち)

娘乞食お香代さんお不動様の雨乞い伝説の淵。

(30) 七段五輪塔

毛呂窪大屋倉地籍。地輪下に二段。花崗岩。六段目の蓮華座に地輪が収まる掘り込み。小川を百巢川、地名は神田・番田・姥田・大黒屋・火地里神・神田・大屋倉等の土地をくるめ百人洞と呼んだ。この地を開いた林権兵衛の供養塔で、五輪様と呼ばれる。大屋倉は龍西一望の地で、櫓(矢倉)でもあったと思われる。

(31) 八の倉観音(秩父三〇番)

由来伝承不詳。八の倉の氏寺。春秋二回の例祭。

(32) 鶯ヶ城跡

二〇〇七年に発掘調査。一三世紀の中津川製甕破片・一六世紀の瀬戸製茶碗破片・内耳土器・鍋破片・井戸端遺跡など。松島丹後守関係の城砦との伝承があるが断定されていない。

(33) 龍東南限の古墳

下村大屋敷地籍。円墳と推定され、龍東に分布する古墳の南限となる。

(34) 下村遺跡(古墳時代中期)

平成七年の発掘調査で須恵器のはそう出土。

千代の村数は一六ヶ村で、「上の村」は七ヶ村で、「田力」「芋平」「米川」「毛呂窪」「松窪」「柳窪」「天の窪」「中の村」は八ヶ村で、「野池」「米峯」「法全寺」「番田」「八の倉」「上大郡」「下村」。そして、「下の村」は一ヶ村で「下大郡」であった。千代は中世には「上中の村」が多く豊かであったと思われる。

第60回 研究発表例会 1月25日(土)

下黒田東地名研究会の八年

—その歩み・成果と課題—

研究例会は記念すべき第60回と相成りました。更なる地名研究の広がりや深まりを祈念しつつ「小さな地域における組織的な地名研究」の実践について下黒田東地名研究会から発表をいただきます。つきましては、お誘いあわせ奮ってご出席賜りますようお願い申し上げます。

記

日時 1月25日(土) 午後1時30分

場所 飯田市上郷考古博物館 会議室

テーマ 「下黒田東地名研究会の活動

発表者 上郷下黒田東地名研究会

井坪 隆・中島 正韶・他

発表要旨

- 平成18年「ここに住み、ここで往生するのだから、ここをもっと良くしよう、もっと地元を知ろう」という思いや願いから、地域づくり人づくりに関わる地域の役員らが中心となり有志を募り発足し八年を経ました。
- 地域の課題や来し方往く末を語るなかでの地名調査研究会です。「入退会自由」でしたが会員は20人前後
- 研究例会・現地調査・地域の長老を招いたり訪問したりして地名を含む地域史を学び小字名を記録。毎年文化展で研究発表や啓発活動・広報紙への地名コラムの掲載・下黒小字地名マップの作成・地名講座(史学会・専修学校・高齢者クラブ・子ども図書館)や臨地研修の案内など。多様な活動を展開しております。
- 特に「地名から探る戦国飯沼城の縄張り」では新仮説を文化展で展示発表するなど話題を呼びました。
- 「桜畑」地名の調査研究を数年にわたり積み重ねるな

かで、遂に、公民館分館・自治組織単位名の方角地名「下黒田東」から、この地の広域地名である「桜畑」に呼称を変更することを研究会として確認しました。現在は下黒田自治協議会の設立25周年にあわせての、提案の可否について慎重に検討している最中であります。

○このような小さな地域の小さな地名研究会の活動ではありますが、地域づくりにかわる地域の仲間と、地名を生かしていく営みのなかで、広め深められる学びについてお話しできればと考えております。

第六回 伊那谷の地名講座

飯田の地名と白山信仰

飯田市立中央図書館と共催

日時 平成26年2月1日(日) 午後1時30分

場所 飯田市立中央図書館 研修室(2階)

発表者 今村 光利 会員

テーマ 「飯田の地名と白山信仰

—麻績の天白、修験道としての白山信仰—

発表要旨

今村 光利

伊勢土着の麻績氏が伝えたとされる「天白信仰」、その信仰対象太白山「虚空蔵」と「権現山」の白山信仰開祖で修験道の開山者、泰澄国師による両信仰の対象であった「かざこし山」、その裾野に広がる教場としての「飯田」の地名を同じ「飯田」と比較しながら見てみましょう。

日本には古来より、山や川には神々が住むという自然神の信仰があり、そこには農耕の神、人々救済の神が宿る。として、「白山信仰」を開いた人が泰澄国師です。

上飯田の「かざこし山」一帯は奈良時代、泰澄国師によつて開かれた白山信仰を伝える信仰の山です。

その中心が「権現山」と呼ばれる山岳信仰の山です。山麓には丸山を中心に、白山信仰による地名が伝わるのと同時に、飯田下伊那地域の広範な信仰として、修験道に

よる白山信仰の拠点が三箇所に置かれ、それによる「権現信仰」を大切に伝えていきます。

白山信仰による地名は、地域に置ける信仰の歴史であり、人びとが日々の生活に活かされてきた、信仰による地域の歴史資料です。(飯田市箕瀬町在住)

1)連絡のお願い

○第12回 地名シンポジウム開催・予告

日時 3月15日(土) 午後1時30分

会場 飯田市美術博物館 講堂 詳細は後日(次号)

○『地名コラム』原稿募集

南信州新聞紙に掲載の「地名コラム」は、既に三二〇回を越えました。地名研究の活動でこれだけの連載は貴重な事例であるとの評価を頂戴しております。更に大切に継続して行くことが、当会活動の大事な柱に繋がっています。大切なことは全会員皆さんの原稿を掲載することであります。原稿執筆をお願いします。

○新会員の紹介 宜しくお願いします

大平 宏 氏 飯田市千代野池 在住

○『伊那谷の地名』第3輯の販売について

第3輯の販売に協力を願います。会員で未購入の方は急ぎ事務局へ連絡ください。会員価格 一八〇〇円。

○第5回 運営委員会の開催

60例会終了後に同会場にて引き続き開催します。

伊那谷地名研究会事務局

林善清会員から頂戴のフィールドワーク研修資料の三五頁余を紙面都合で二頁に縮小。意を盡せない編集の箇所多々あるかと存じます。お詫び申し上げます。編集子

事務局 中島正韶 TEL 〇二六五(二四)〇一三五
三九五-〇〇〇四 長野県飯田市上郷黒田一九七七
E-mail nakajimay2@clock.ocn.ne.jp